

## 胃瘻造設高齢者の実態把握及び介護施設・在宅における管理等のあり方の調査研究

### 1. 調査の目的

経口での栄養摂取が困難なケースにおいて、胃瘻を造設して栄養摂取を行うことが広く普及しており、胃瘻造設者に占める高齢者の割合は高くなっています。急性期病院で胃瘻を造設した高齢者は、回復期の医療機関でのリハビリ期間、介護施設・在宅での療養期間においても胃瘻からの栄養摂取を継続することが多く、胃瘻を適切に管理していくには医療機関との連携が必要となります。

高齢化が進展し、在宅療養の機会が増加するなか、胃瘻造設高齢者の実態を全国的な規模で把握し、医療機関での胃瘻造設の指針（胃瘻造設の適切な例など）や介護施設や在宅での胃瘻造設者の生活が構築できる環境・体制のあり方についての検討、提言を行うことを目的として本調査を実施します。

### 2. 調査の実施主体

厚生労働省老健局所管の老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）を受けて社団法人全日本病院協会が実施する事業です。

### 3. 調査の対象

本調査は、全国の施設・事業所から無作為抽出して調査対象とします。対象とする施設・事業所区分及び調査対象数は以下の通りです。

- ①病院（急性期 1,000 施設程度、慢性期 1,000 施設程度）
- ②介護老人福祉施設（1,200 施設程度）
- ③介護老人保健施設（800 施設程度）
- ④介護療養型老人保健施設（60 施設程度）
- ⑤訪問看護ステーション（1,200 施設程度）

#### 4. 調査の内容

郵送・自記式のアンケート調査を実施するとともに、ご回答いただいた施設・事業所から選定したところを対象としてヒアリング調査を実施する予定です。

##### <アンケート調査>

施設・事業所票では、施設の規模（病床数や定員数など）、胃瘻造設患者数、嚥下障害の原因疾患、経口摂取併用状況等について調査する予定です。

職員票では、調査対象の施設・事業所において無作為抽出（例えば五十音順）した5名の職員を対象として、経験年数、インフォームドコンセントの実施状況、胃瘻造設高齢者をケアする上での課題、医療機関との連携状況等について調査する予定です。

家族票では、調査対象の施設・事業所において無作為抽出（例えば五十音順）した5名の患者・利用者の家族を対象として、家族の構成、胃瘻造設における本人の意思確認の有無、胃瘻造設を決定するまでのプロセス、胃瘻造設高齢者をケアする上での課題等について調査する予定です。

※職員票、家族票は個別の返信用封筒にて返送してもらい、回答内容が他者に見られないように配慮いたします。

##### <ヒアリング調査>

病院、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型老人保健施設、及び訪問看護ステーションから3~5施設を選定して、胃瘻の有無が受入判断に及ぼす影響、受入が困難な胃瘻造設高齢者の状態像、胃瘻管理における課題、医療機関との連携状況、連携における課題等について調査する予定です。

#### 5. 調査のスケジュール

平成22年	8月	アンケート調査票の作成・プレ調査の実施
	9月	アンケート調査票の発送
	10月	アンケート調査票の回収
	11月	アンケート回答内容の疑義照会
	12月	アンケート調査の速報・ヒアリング調査の依頼
平成23年	1月	アンケート調査の集計・ヒアリング調査の開始
	2月	アンケート調査の分析・ヒアリング調査の終了
	3月	調査報告書の作成

以上